

第9回 函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察

開催方法：集合開催

テーマ：「地域でつなげようACPの輪～この地域でのACP連携を目指して～」

目的：その方らしい生き方を実現していくため、加齢や疾病による影響から心身の状態が変化していく本人の不安や葛藤などに寄り添い、もしもの時に本人の想いを見逃さないように、支援に関わる一人ひとりが意識していけることを目的とする。

目標：・もしもの時のために本人の想いをどのようなタイミングや方法で聞き取りすると良いのかを考える。
・もしもノートを活用しながらACPを行う際の留意点などを知る。
・本人の想いを叶える支援の実現を目指し、医療・介護関係者が情報共有していく必要性を考える。

【アンケート内の意見】※一部抜粋

<医師>

ACPの実践という観点で学ぶことが多かったです。

<歯科医師>

初参加になりますので、日頃在宅訪問診療や介護施設の往診などの際に、患者さんや入所者さんへの対応の仕方を、ある一定の基準を定めて話ができる事を、マニュアルに沿いながら学べた事が非常に役にたてたと思います。

<薬剤師>

自ら、もしもノートに記載する事で今後の患者との接し方、考え方など再考する事ができ、更に他の職種の方々の意見を聞く事で多角的視野を学ぶ事ができた。

<看護師>

ACPの本来の意味について改めて学び確認することができました。日頃の看護では、患者対応でご本人の意志とご家族の意志の相違があり困惑することもあります。あくまでもその時々条件に合わせてその都度考えることが重要かと思いましたが、人がどう生きたいかの思いは変わるものだから。

<相談員>

一機関だけでACPを完結するのは難しい。場面、場面で関わった専門職が寄り添い繋げていくことが大切。ACPは非常に良いテーマだったと思います。

<ケアマネジャー>

独居身寄りなし高齢者が増加していくなかで、ケアマネジャーがご本人の想いを繋ぐ立場になる可能性が今後益々あるだろうと考えており、ACPについての正しい理解が必要だと考えている。

<保健師>

ACP≠DNARではないこと、常に思い、意志は変化すること、変化してもよいことを再確認できた。その為に多職種連携が重要。家族にはなせないことが沢山あること、専門職として中立な立場で本人、家族に寄り添うことの大切さを学んだ。

<介護職員>

ACPの考え方、引き出し方、自分事として考えること、もしもノート等についてグループワークを通して活発な議論ができ、色々な捉え方があることも知れたので有意義な時間となりました。利用者様含めご家族や支援者さん、自分や自分の家族ともっと話をしたいなと思いました。研修を活かせるように日々暮らしていきたいと思います。

<栄養士>

栄養士という職種で、できるだけ口から食事を召し上がっていただきたいと常日頃から感じています。ただ、それを望まない利用者様がられることも事実、介助が必要な方が多くなれば現場も手が回らないため、胃瘻などの人が入って来てくれたら…などの声を聞くこともあります。利用者様や家族に寄り添うとは？と、介護現場に入ってみて自問することも多くなりました。病院のように疾病治癒のための食事でもなく、病気にかからないための予防という食事とも少し違う、ある意味特殊な環境の中で何を目的として専門性を活かすのか、これからもいろいろと学んで現場で迷いながら考えていこうと感じました。この度は貴重な気づき、そして話しありがとうございました。

<学生>

ACPは授業で簡単に説明を受けていただけなので、今回をきっかけに深く学ぶことができました。また、「もしもノート」では実際に活用できる機会が少ないため、家族の中で話し合える時間を作って考えてみたいと思います。

【分析・考察】

研修会の参加人数は、グループワーク席（141名）と聴講席（67名）で、関係者を含めると総数232名であった。

昨年度は、新型コロナが5類になって間もないことから参加人数を縮小することを考えてグループワーク席のみとした。しかし、聴講席を希望する方もいることから、今年度はコロナ前の開催方法に戻している。グループワークへの参加には抵抗があっても、聴講だけなら参加したいという方もいるため、聴講席を設けたことは良かったのではないかと思

われる。また、聴講席の方へグループワークへの参加の声掛けをしたところ、数名が参加され、「とても楽しかったので、初めからグループワーク席を希望するとよかった」という声もあったことから、次年度も聴講席の方への声掛けを行うとよいのではないかと考える。

アンケートは、232名の内103名からの回収であった。回答方法はアンケート記入用紙に記入した方が69名、Google フォームで回答した方が34名だった。次年度も今年度同様に好きな方法を選んで回答してもらおうことを考えている。

図2の研修テーマへの意見として、よかったが102名、未回答は1名だったが、この未回答の方からのご意見はなかった。

アンケート内の意見から、「日頃の看護では、患者対応でご本人の意志とご家族の意志の相違があり困惑することもあります、あくまでもその時々 conditions に合わせてその都度考えることが重要かと思いました」、「ACPの考え方、引き出し方、自分事として考えること、もしもノート等についてグループワークを通して活発な議論ができ、色んな捉え方があることも知れたので有意義な時間となりました」、「グループワークにより、より細かな見解にふれることが出来た」などのご意見や感想があったことから、本研修の3つの目標は、上記のアンケート記入内容から達成できたのではないかとと思われる。

図3の今後希望する研修については、アンケートから「医療・介護の連携に関する内容」を希望する方が多く、その内容としては、「その方が希望する場所、どこでも看取ることが可能になるような体制作りについて。病院、施設、在宅医療、介護など、地域および所属場所で温度差があるような気がします。医療用麻薬、CV ポートの管理が困難で難しいなど。制度上の問題、マンパワーなど、様々な課題がある背景があると思いますので、具体的に地域で改善に向けての取り組みについて検討したいと思いました」といったご意見もあり、日々の業務の中で利用者（患者）の支援を行っていく中で、このような場面に遭遇する頻度が増えているのではないかと考えている。

図1 【参加者（アンケート回答者）の職種】

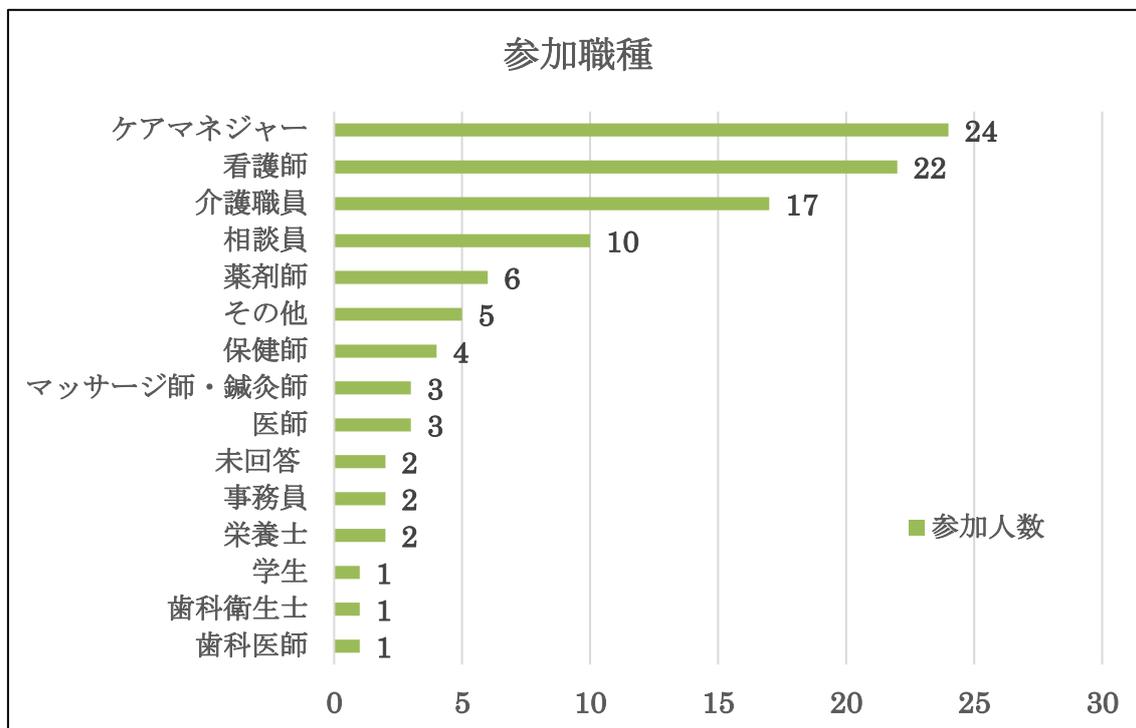


図2 【研修テーマへの意見】

よかった	102名	99.0%
どちらともいえない	0名	0.0%
よくなかった	0名	0.0%
未回答	1名	1.0%

図3 【希望する研修】

医療・介護の連携に関する内容	8件
看取り・緩和ケアに関する内容	5件
多職種でのグループワーク、事例検討	4件
ACPに関わる内容	3件
意思決定支援に関する内容	2件
適切な情報共有の仕方（はこだて医療・介護連携サマリー使用）	2件
医療・介護トリプル改定のその後の市内の状況	1件
病院の医師が参加できるもの	1件